

夏休みは、未来を守るチャンス！ HPVについて知ろう



① HPV(ヒトパピローマウイルス)とは？



一生に一度は感染する、ありふれたウイルスです。
男女ともに感染する可能性があります。



子宮頸がん

肛門がん

尖圭コンジローマ

男女ともに感染する
可能性があります。

HPVの感染が原因で、これらの病気になることがあります。
子宮頸がんは20代～40代に多く見つかり、近年増加しています。

② HPVワクチンで、未来を守る



HPVワクチンの接種で、HPVの感染を防ぐことができます。
若い時期に接種した方が高い効果が期待できます。



③ 接種スケジュールと対象

通常は3回接種が必要ですが、15歳になる前に1回目の接種を完了すれば、2回で完了できます。
定期接種は、小学校6年生～高校1年生相当の女子が対象で、無料で接種できます。
※自治体によっては小学校6年生～高校1年生相当の男子についても助成される場合があります。

夏休みの予定にワクチン接種を！
HPVについてご家族で話し合ってみませんか？

詳細は、お住まいの自治体のホームページなどでご確認ください

東京産婦人科医会

<ヒトパピローマウイルス(HPV)とは>

男女ともに感染する可能性のあるウイルスです。200種類以上の型があり、海外の報告では**男性の91.3%、女性の84.6%**が生涯のうちに一度は何らかのHPVに感染すると言われています。ほどありふれたウイルスです。

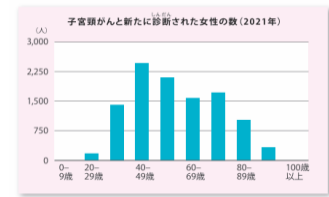
子宮頸がんを始め、**肛門がん、膣がん**などのがんや**尖圭コンジローマ**等多くの病気の発生に関わっています。特に近年若い女性の子宮頸がん罹患が増えています。

<子宮頸がんとは>

子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。

日本では毎年、**約1.1万人**の女性がかかる病気で、さらに毎年、**約3,000人**の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に**約900人**います。



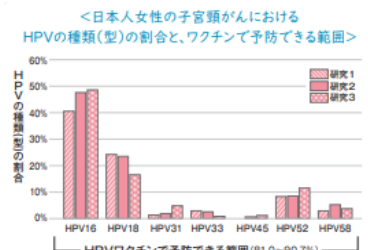
<尖圭コンジローマとは>

性別に関わらず低リスク型(非発がん性)HPVの感染によって生殖器にできる良性のいぼです。原因となるHPVの型は、6型および11型が90%以上を占めます。治療しても、高頻度に再発するため、繰り返し治療が必要です。

<HPVワクチンについて>

HPVワクチンは定期接種のワクチンです。定期接種とは「予防接種法」に基づいて、市区町村が主体となって対象者や接種時期を定め、公費(原則無料)で実施されるワクチン接種のことです。

現在、定期接種として用いられるワクチンは9種類のHPVの感染を防ぐ9価ワクチンです。9価ワクチンは最も発がんリスクの高い16型・18型に加え、31・33・45・52・58型の感染を予防し、子宮頸がんの約80~90%が予防可能です。また、尖圭コンジローマの原因となる6・11型も予防します。



<ワクチンのリスクについて>

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがありますが、通常は数日程度で治まります。

<定期接種の対象者とスケジュール>

小学6年~高校1年相当の女子は無料で接種可能です。通常、一定の間隔をあけて、3回接種しますが、15歳になる前に1回目を接種すれば2回で完了することも可能です。詳しくは接種する医療機関に相談してください。

男性は任意接種です。ワクチンの種類によって、2回もしくは3回接種で合計5~9万円程度かかりますが、自治体によっては、費用補助を行っている場合があります。詳しくはお住いの自治体にご確認ください。

